

地方創生加速化交付金事業の評価・検証について

資料 2-2

交付金対象事業の名称	交付金の種類	主管課
Ⅱ. 観光フロンティア市場化事業	基礎交付	企画財政課

事業費(計画額)	40,000,000円
事業完了(見込)額	39,930,000円

①総合戦略での位置づけ

- 基本目標2 「みんなでいつまでも！」 移住・定住支援と多世代共生
【数値目標】 転出超過人数 (H27年度:200人 ⇒ H31年度:150人)
- 基本目標3 「みんなが活躍！」 地域の活性化と雇用創出
【数値目標】 従業者数 (H26年度:10,309人 ⇒ H31年度:10,500人)
- 基本目標4 「みんなを呼び込む！」 地域の魅力発進と地域間連携
【数値目標】 交流人口 (H25年度:284,920人 ⇒ H31年度:340,000人)

②事業の概要・目的

本市は、名古屋まで直線距離で約40km、公共交通機関で1時間余りの位置にありながら、田園・山林・清流等に恵まれている。しかし、それを生かした観光施策は未開発(フロンティア)である。そのため、これらの地勢を生かすべく、多様な団体が連携し、DMO法人化も目指す。また、新たな観光体験メニューを創設し、既存の農山村体験を併せて体系化・メニュー化し、都市住民等を対象とした交流人口の増加を目指す。

③交付金を充当した内容

- 「山県市版DMO化推進」
交流人口増加に関わる多様な主体により、DMO法人を目指す協議会を立ち上げ、各主体の活動を有機的につなげることで、相乗効果による交流人口増加を目指す。 6,000千円
- 「山県市版観光プロモーション」
本市の持つ潜在的ポテンシャルを引き出すべく、近隣女子大学生等を巻き込んで、本市の魅力を整理・再発見し、推奨観光ルートを生み出して都市住民に発信していく。 15,000千円
- 「農山村体験(交流)の活性化」
新たな体験型観光の創出と既存の体験型観光を体系的にメニュー化し、観光コンシェルジュを設置して、都会の多様なニーズに的確に応え、交流人口・移住人口の増加を目指す。具体的には、農(米・野菜)・林(木工品・炭焼き)・水産業(マス・アマゴ・ワカサギ)・工芸(柿染・そば打ち・革加工・調香)等の体験、朝市開催等 12,000千円
- 「観光拠点等リノベーション」
岐阜圏域唯一の湖であり「恋人の聖地」に認定されたばかりの伊自良湖周辺、全国でも珍しい香りのテーマパーク「香り会館」等、既存の観光拠点において、近隣女子大生等のセンスを取り入れた改装等するとともに、都市住民に人気のカタクリ群生地を移植して新たな観光地を創出する。

④KPI(重要業績評価指標) H31目標値

ホームページアクセス件数(ユニークアクセス数) 31,000件/月
Youtube、Facebook等閲覧回数 10,000回
移住・定住希望者の田舎暮らし体験者数 50人
朝市開催回数及び売上高 9回、3,000千円

⑤KPI達成度 (H29年3月実績値)

ホームページアクセス件数(ユニークアクセス数) 35,200件/月
Youtube、Facebook等閲覧回数 44,000回
移住・定住希望者の田舎暮らし体験者数 100人
朝市開催回数及び売上高 5回、312千円

⑥事業成果

新たな観光資源の創出と協働による情報発信をするため、多様な団体が組織された観光振興加速化協議会を設立し、観光情報の起源となる団体を組織することができた。また、散在する観光スポットをエリアごとにまとめた観光ルートの提案や13種の体験型観光メニューを創出し、アンケートの実施や検証のためのモニタリングツアーを実施したことで、ツアーの魅力や課題を整理することができた。女子大生の感性を取り入れた観光拠点の改修案を求めたことで、観光拠点に必要なコンテンツを整理することができました。

⑦課題

観光資源を整理する中で「観光スポットのうちいくつかは、訪問客ががっかりさせてしまう恐れがある。」との指摘があるにもかかわらず、放置されているのが現状である。観光資源を増やしても維持管理が行き届かなければ観光客をガッカリさせ、マイナスのイメージが拡散する恐れがある。そこで、交流人口の増加を目指すなら、案内サインを整備し、観光スポットとしてお客様を受け入れる最低限の維持管理が求められる。また、観光振興加速化協議会については、メンバーの情報発信スキルの向上が求められる。なお、DMOの形成には、その担い手となる組織の育成や安定的な財源確保が課題である。

⑧今後の方向性

協議会については、稼ぐ力を身につけるための施策等を模索し、組織の再編も視野に入れ継続的な運営を目指す。
整理された体験型観光メニューについては、案内人や世話人の育成を視野に入れ、実施可能なものを目指す。また、整理された観光ルートについては、多様なコンテンツを活用し、積極的なPRに努める。
女子大生の提案を受けた観光拠点(伊自良湖周辺)のリノベーションについては、地方創生拠点整備交付金を活用し、大規模な改修を行う。

地方創生加速化交付金事業の評価・検証について

交付金対象事業の名称	交付金の種類	主管課	事業費(計画額)	6,000,000円
1. 山口市版DMO化推進事業	加速化交付金	産業課	事業完了(見込)額	5,950,800円

①総合戦略での位置づけ

基本目標4 みんなでいつまでも！

(1) 交流人口の呼び込み

① 地域資源の有効活用

【数値目標】 交流人口(観光地点別入込客数) 340,000人
〔基準値(H25) 284,920人〕

②事業の概要・目的

農林水産業関係者・農協・商工会・企業・金融機関、観光協会・マスコミ、自治会・福祉法人、交通事業者、大学、行政等により、新たな観光資源の創出と協働による情報発信をするため、将来的にはDMO法人取得を目指す協議会の設立

③交付金を充当した内容

- 山口市観光振興加速化協議会運営及びスケジュール管理 994千円
- 山口市版DMO推進支援事業の実施方法及びキャラクターの活用効果測定
- ・ 人材教育、研修を行い受け入れ組織を支援、実証実験
- ・ 市場化に伴うPR・セールス冊子の作成
- ・ ナッチョルクんのキャラクター(着ぐるみの)の活用費用対効果測定
- ・ 観光に係る問題点や課題の整理

4,795千円 + 162千円 = 4,957千円
合計 5,951千円

④事業目標

- ・ 山口市観光振興加速化協議会を3回以上開催し観光にかかる問題と課題を整理する。(3回以上)
- ・ DMOの法人化を目指す。(人材教育、意識改革などの研修を実施する。3回)

⑤達成度

- ・ 山口市観光振興加速化協議会を設立
(協議会構成員 学識経験者・山口市観光協会・山口市商工会・金融機関・交通事業者・地域団体・地域おこし協力隊・農林漁業者・山口市 13名で構成) 協議会開催数 4回
- ・ DMO法人化フォローアップ研修の実施 研修会回数 3回 参加者数合計 70名
- ・ DMO支援活動を実施 12回
- ・ 山口市観光フロンティア市場化事業特別講演会の実施 1回
- ・ 市場化に伴うPR・セールス冊子5,000部、法被50着、のぼり旗50本

⑥事業成果

- ・ DMO取得に向けて山口市観光振興加速化協議会を設立し、当市における観光振興に携わる方々に対して、DMO法人化フォローアップ研修と支援活動を行ったことで、観光振興に携わる方々のコミュニケーションを図ることができた。また、研修の中で自らの視点で地域資源の掘り起こしを行ったことで、今後、様々な活躍の場づくりを自ら生み出す足掛かりを作ることができた。
- ・ ナッチョルクんの動画コンテンツの作成、PRセールス冊子を作成し、市外へ向けての情報発信力強化することができた。

⑦課題

- ・ DMO取得に関しては、観光振興に携わる方々が、自発的に活躍の場づくりを行える実行力が必要になるため、今後も観光振興に携わる方々に対して支援が必要
- ・ 制作したコンテンツを効率的・効果的な発信方法の確立
- ・ 当市の魅力を伝えるための観光スポットと観光コンテンツを整理し、観光客の受け入れ態勢の強化

⑧今後の方向性

- ・ DMO取得に向けて、観光振興振興団体の取り組みに関する支援
- ・ 制作したコンテンツを周知させる上で有効な情報発信への取り組み
- ・ 観光における魅力の整理行い、観光客の受け入れ態勢を強化するために、観光スポットの改善計画の作成

地方創生加速化交付金事業の評価・検証について

交付金対象事業の名称	交付金の種類	主管課
2. 観光プロモーション事業	加速化交付金	企画財政課

事業費(計画額)	15,000,000円
事業完了(見込)額	15,000,000円

①総合戦略での位置づけ

基本目標4 みんなを呼び込む！

(1)交流人口の呼び込み

①地域資源の有効活用

【数値目標】 交流人口(観光地点別入込客数) 340,000人
〔基準値(H25) 284,920人〕

②事業の概要・目的

山県市には、1,000mを超える日帰り登山に適した舟伏山等がある。また、清流が多く、釣りやキャンプ・バーベキュー等、伊自良湖ではワカサギ釣り等が堪能できる。さらに、イチゴ狩りや調香体験等、名古屋圏等からの日帰り観光には適した素材が多くある。しかし、これらは単発的な発信であって日帰り観光の魅力が分散している。

そこで、これらの観光資源のほか、現在未開発となっている自然体験観光資源を整理・再発見するとともに体系化し、山県市の持つ日帰り観光ポテンシャルを高め、日帰り観光の訪問客の増加による交流人口の増加を目指す。

③交付金を充当した内容

山県市 観光プロモーション(観光ストーリー創出)事業業務委託料
業務内容

○都市住民に向けての魅力整理

・名古屋圏の大学生等アンケートの実施と整理

・ネットアンケートによる特定世代を対象とした魅力の整理

○観光発信

・市の魅力発信ポータルサイト「YAMAGATA BASE」と連動したバスツアーの実施

④事業目標

・アンケート及びネットアンケート数 概ね500名

・「YAMAGATA BASE」と連動したバスツアー 5回、参加者100名

・観光体験を念頭においたコンテンツ制作 5本

・東海ウォーカーへ、「YAMAGATA BASE」とのタイアップ記事の掲載

⑤達成度

・アンケート及びネットアンケート数 (無作為抽出 500名、近隣大学生48名 合計548名)

・「YAMAGATA BASE」と連動したバスツアー 5回、参加者103名

・観光体験を念頭においたコンテンツ制作 10本

・東海ウォーカーへ、「YAMAGATA BASE」とのツアー関連タイアップ記事の掲載 6回

⑥事業成果

○都市部に向けての魅力を整理するため、山県市の現状把握

・アンケート及びネットアンケート数 (無作為抽出 500名、近隣大学生48名 合計548名)

・近隣地域の山県市の認知度 全体14.6%、名古屋圏47.5%、近隣大学生22.9%

○2019年に高富インターチェンジ開通することを受け、車での山県市へのリポートを考慮して事業を実施

・日帰りバスツアー終了時のアンケート調査の結果(本市の認知度 25%、ツアーの満足度 93%)

・本市を知らなかった人が全体の75%を占め、ツアーの満足度が93%であることから、本市の魅力発信、認知拡大を図ることができた。

⑦課題

アンケート調査の結果、近隣地域における本市の認知度はあまり高くない。そのため、日帰り観光の訪問客の増加による交流人口を目指すためには、近隣地域に向けて本市の認知度をアップする手法を考える必要がある。

⑧今後の方向性

アンケート調査により、山県市を認知している方の訪問割合が比較的高いため、山県市を広くPRすることが必要がある。

そこで、今後も継続して各メディアを通じて本市を広くPRしつつ、ターゲット毎に具体的なアプローチ方法を検討し、実施する必要がある。

地方創生加速化交付金事業の評価・検証について

交付金対象事業の名称	交付金の種類	主管課	事業費(計画額)	12,000,000円
3. 農山村体験(交流)の活性化	加速化交付金	産業課	事業完了(見込)額	11,979,000円

①総合戦略での位置づけ

基本目標4 みんなでいつまでも！

(1)交流人口の呼び込み

①地域資源の有効活用

【数値目標】 交流人口(観光地点別入込客数) 340,000人
〔基準値(H25) 284,920人〕

②事業の概要・目的

都市住民を対象に、多様な世代に狙いを付けた農(米・野菜)・林(木工品・炭焼き)・水産(マス・アマゴ・ワカサギ)・工芸(柿染・そば打ち・革加工・調香)等の体験、朝市開催等の市内での体験型観光資源を中心にした体験ツアーの創出。

観光促進と公共施設(空き施設)の有効利用を目指し、市内の観光施設・名所及び観光資源を紹介できる「コンシェルジュ(相談・紹介まどぐち)」を設置し、情報発信と交流人口の増加を図る。

③交付金を充当した内容

○体験創出・メニュー・朝市開催委託料 9,979千円
・農林漁業体験、自然、文化、生活、祭り、買い物、山県の地域資源を活用した体験メニューの創出
・宿泊、食、広域連携のツアーの創出
・モニタリングツアーのアンケート用紙の作成、調査、集計、分析
・朝市(農産物等の販売)の開催
・空き施設を活用のコンシェルジュ委託料 2,000千円

④事業目標

・山県の地域資源を活用した体験メニューの創出
・宿泊、食、広域連携のツアーの創出
・朝市(農産物等の販売)の開催、(開催数9回、売上げ 2,000千円)
・交流人口・移住人口の増加

⑤達成度

・山県の地域資源を活用した体験メニューの創出 13案
・山県産の素材を利用した食メニューの提案 3案、試食会 2回
・朝市(農産物等の販売)の開催、(開催数5回、売上げ 312千円)
・モニタリングツアーの開催 6回 内宿泊ツアー 2回 参加者58名
・コンシェルジュ利用者 5名

⑥事業成果

○体験型モニタリングツアーを6回行い、ツアー参加者からアンケートの結果を参考にして、体験型プログラムを13案創出することができた。
○山県産の素材を利用した新商品を3品(イチゴソース団子、ポーノポークの彩り餃子、ポーノポークの肉巻きおにぎり)開発し、試食会をてんこもり、アクティブG(春のやまがた観光物産フェア)で開催、アンケート調査を実施。現在、市内の業者が商品のテスト販売に踏み切り、新商品を開発することができた。
○愛知県一宮市(一宮地方総合卸売り市場)で定期的に朝市を5回開催、延べ来場者数約9,000人～10,000人で山県市の認知度を高め、交流人口の増加に寄与することができた。

⑦課題

大都市に近くて自然環境に恵まれ、住環境に優れている当市の持つポテンシャルに対する認知度を向上させるために本事業で創出した体験型ツアー、新商品などを上手く活用して情報発信していく取り組みが必要になる。
また、市内観光施設等の潜在的なポテンシャルを高めるために、それらの魅力を整理し、有機的に結びつけるコンテンツを創出し、効率的・効果的な発信をする必要がある。

⑧今後の方向性

大都市に近くて自然環境に恵まれ、住環境に優れている当市の持つポテンシャルに対する認知度を向上させるために次のような取り組みを実施していく。
・観光施設の魅力を整理し、それらを有機的に結び付け、市内を周遊できるコンテンツを創出することで、個々の施設が持つポテンシャルを引き上げる。また、それに合わせた既存施設改善計画の作成
・観光コンテンツ等の効率的・効果的な発信に取り組む。

地方創生加速化交付金事業の評価・検証について

交付金対象事業の名称	交付金の種類	主管課	事業費(計画額)	7,000,000円
4. 観光拠点等リノベーション事業	加速化交付金	産業課	事業完了(見込)額	7,029,600円

①総合戦略での位置づけ

基本目標4 みんなでいつまでも！

(1)交流人口の呼び込み

①地域資源の有効活用

【数値目標】 交流人口(観光地点別入込客数) 340,000人
〔基準値(H25) 284,920人〕

②事業の概要・目的

岐阜圏域唯一の湖でもあり「恋人の聖地」に認定されたばかりの伊自良湖周辺、全国でも珍しい香りのテーマパーク「香り会館」がある「四国山香りの森公園」など既存の観光拠点において、近隣女子大学生等のセンスを取り入れた改装等をするとともに、都市住民に人気のカタクリ群生地を移植して新たな観光地を創出する。

③交付金を充当した内容

山県市観光拠点リノベーション事業提案業務委託 1,000千円
山県市観光拠点リノベーション業務委託 3,532千円
山県市観光拠点リノベーションカタクリ移植業務 500千円
伊自良農産物直売所洗面台更新工事 994千円
香り会館女子トイレ便器更新工事 1,004千円

④事業目標

・伊自良湖周辺 恋人の整地として問題点と潜在的魅力の洗い出し。
・四国山香りの森公園 市内外からの訪問客増大に向けての問題点と潜在的魅力の洗い出し。

⑤達成度

○観光拠点リノベーション

- ・伊自良湖周辺の調査結果に基づく潜在的魅力と問題点の整理及改善整備の方向性の取りまとめ報告
- ・四国山香りの森公園の調査結果に基づく潜在的魅力と問題点の整理及改善整備の方向性の取りまとめ報告
- ・四国山香りの森公園内にカタクリの移植 2,000株(10回作業)
- ・伊自良農産物直売所洗面台更新工事

⑥事業成果

・岐阜女子大学の提案で観光拠点のリノベーションを実施したことにより来訪者に対するリピート意識を醸成できた。
・四国山香りの森公園にカタクリを移植することにより、新たな観光施設を創出したことにより、観光拠点としての公園に付加価値をつけることができた。

⑦課題

「伊自良湖周辺」及び「四国山香りの森公園」について、岐阜女子大学生からの提案を参考にした施設に改修する計画をたてる必要がある。

⑧今後の方向性

岐阜女子大学生からの提案を参考にして、「恋人の聖地」として認定されている伊自良湖を恋愛パワースポットとして、若い世代も対象にした施設に改修する。
また、伊自良湖畔にある農産物直売所についても、「岐阜県青少年の家」などの周辺施設の廃止等により観光客は激減してきていることから、新たに独身男女にもターゲットを絞り、再整備し、観光客の増加による飲食・物販等の収益増 加と、就労の場の確保を目指す。